

Notice on Plankton Seminar

#07016

9:30-11:30, 10 September(Mon),2007.at Room # W-103

.....

Makoto Terazaki (1998)

Life history, distribution, seasonal variability
and feeding of the pelagic chaetognath

Sagitta elegans in the Subarctic Pacific:A review

Plankton Biol. Ecol. **45**:1-17

総説：亜寒帯太平洋における浮遊性毛顎動物 *Sagitta elegans* の
生活史、分布、季節変動、摂餌

亜寒帯太平洋における浮遊性毛顎動物の優占種は *Sagitta elegans* である。本論文は *S. elegans* の季節変動、水平分布、鉛直分布、日周移動、繁殖、生活史、消化管内容物、摂餌についての総説である。

S. elegans の南限は対馬列島付近の海域であり、この海域は表層に暖流が流れ込んでいる。日本海では 3 属 17 種の毛顎動物が生息しているが、水深 0~1000 m では *S. elegans* が 93.9~100%を構成している。1000 m 以深では *Eukrohnia hamata*、*E. bathypelagica*、*S. macrocephala* などが存在しないため、毛顎動物内で *S. elegans* のみが分布している。

様々な海域で日周鉛直移動が観察されているが、小型個体に比べ、大型個体はより大きなスケールでの移動を行っている。Station B(44° N、150° E)では夜間は海面に存在するが、日の出と共に水深 10~50 m に移動する。その時の移動速度は幼体では約 8 m h⁻¹ (上方移動)なのに対し、StageIIIの成体は約 30 m h⁻¹ である。

世代時間については米国ワシントン州のダボブ湾の個体は 4~5 ヶ月、Station P(50° N、145° W)の個体は 6~10 ヶ月、富山湾の個体は 10~12 ヶ月であり、海域によって様々であった。

また、年間の産卵回数についてはダボブ湾では 3 月から 8 月の間に 2 回、Station P では春・夏・秋に各 1 回の合計 3 回、富山湾では 3 月から 5 月に 1 回、8 月に 1 回の合計 2 回であった。

S. elegans は主に Copepoda を摂餌している。*S. elegans* は夏期ベーリング海の 2 次生産の約 10%を消費しており、夏期の Western Gyre では 4%を消費していた。

萩本 誠晃